

平成 29 年度事業計画

日本 MRS ニュース編集委員会 H29 年度活動計画

日本 MRS ニュース編集委員会
委員長 岩田展幸

1. 原稿依頼とニュース発送までの流れ No.1, 3, 4

MRS-Jニュース 発送までの流れ 20170223															
		30日		10日		5日		10日		5日	35日				
No.1	2/20発送	<=<=	1/20印刷所	<=<=	1/10初稿ゲラ修正(事務局)	<=<=	1/05校正(清水)	<=<=	12/25修正原稿	<=<=	12/15修正(事務局)	<=<=	12/10原稿	<=<=	11/05原稿依頼
		30日		10日		5日		10日		5日	35日				
No.2	6/20発送	<=<=	5/20印刷所	<=<=	5/10初稿ゲラ修正(事務局)	<=<=	5/05校正(清水)	<=<=	4/25修正原稿	<=<=	4/15修正(事務局)	<=<=	4/10原稿	<=<=	3/05原稿依頼
		30日		10日		5日		10日		5日	35日				
No.3	8/20発送	<=<=	7/20印刷所	<=<=	7/10初稿ゲラ修正(事務局)	<=<=	7/05校正(清水)	<=<=	6/25修正原稿	<=<=	6/15修正(事務局)	<=<=	6/10原稿	<=<=	5/05原稿依頼
		30日		10日		5日		10日		5日	35日				
No.4	11/20発送	<=<=	10/20印刷所	<=<=	10/10初稿ゲラ修正(事務局)	<=<=	10/05校正(清水)	<=<=	9/25修正原稿	<=<=	9/15修正(事務局)	<=<=	9/10原稿	<=<=	8/05原稿依頼

2. 29-02 号 No.2 号 掲載内容(案)

- ・ A2 版ポスター形式で制作予定
- ・ 第 27 回日本 MRS 年次大会 ポスター A4-4 ページ分 (A2)
- ・ 各シンポジウムの紹介 (代表オーガナイザーの顔写真付き) A4-2 ページ分 (A3)
- ・ 各シンポジウムの研究/研究室/研究施設・設備紹介 A4-2 ページ分 (A3)
- ・ その他要望 1 : 日本 MRS 年次大会シンポジウム提案時の情報収集として、代表オーガナイザーの顔写真提供の依頼をお願いしたい。
- ・ その他要望 2 : 各シンポジウムの研究/研究室/研究施設・設備紹介を依頼したい。

3. 薄膜作製、評価技術、等々、研究を遂行するうえで必要な、基本的な原理や得られる情報などを、専門外の読者でも分かり易く解説した記事の執筆者探索
 薄膜作製、薄膜成長、電気測定、表面測定、物性測定、等など、幅広く平易な解説記事を期待。

編集委員会 H29 年度活動報告計画

編集委員会 委員長 有沢 俊一

平成 29 年度活動計画

- 事務局体制
 - 平成 28 年度は業務委託 1 名であったが、雇用による主担当 1 名と従担当 1 名の体制に。
- 掲載料の改定
 - 紙ベースの時代の料金体系をオンラインベースの時代に適した体系に改定。
 - これに付随し、掲載料に含まれる別刷、冊子、CD 等の見直し。
- 掲載数を向上させるために、広報を積極的に行う。
 - 特に、発行後、半年でオープンアクセスになることのメリットを周知。
- 特集号の発行を検討

参考資料 投稿数推移
年間推移

	年次大会	国際会議	一般	合計
2010	145	0	2	147
2011	122	9	12	143
2012	5	164	9	178
2013	87	0	3	90
2014	25	115	9	149
2015	40	0	10	50
2016	11	0	17	28

シンポジウム別の集計のため、投稿年度とは一致しない。

※2016年の年次大会の論文はほぼ2017年に入ってからのものである。
いる

論文誌の掲載料改定（案）

掲載料体系の改定のねらい

現在の体系は、紙による出版が主体であった時代のものであるため改訂する。

現状の問題点

1. ページ数が多くなると、掲載料が大きくなる。その結果レビューなどを書いてもらいにくい。
2. 紙版の冊子の発行部数が極めて少数なのに、カラー掲載希望者から多額の費用を徴収している。
3. 一般投稿の場合、著者に別刷25部、掲載した紙版の冊子、および掲載論文を1本だけ収録したCDを著者に送付している。この結果、pdfを著者が受け取るまでに、オンライン掲載から2週間程度かかる。事務局もコストと手間がかかる。冊子は現代ではあまり著者にメリットがないと考えられるが、コストに見合うメリットとなっていないと考えられる。（国際会議論文は冊子なし）
4. 送付物が多いため、海外投稿の場合は著者に海外送料の負担が生じる。現状2000円だが、明示されていない。
5. 国内投稿と海外からの投稿とは消費税の扱いを変える必要があるが、現状は同一となっている。また今後消費税が変更となった際に混乱が生じる可能性がある。
6. Invited Paper, Invited Reviewなどの区分が複雑でわかりにくい。

改定案

詳細は別添資料。主な改定のポイントは以下の通り。

1. 掲載した冊子、別刷はオプションとし、基本料金を下げる。
2. レビュー論文は掲載無料とする。
3. 年次大会参加者が関連論文を投稿した場合の価格帯を創設する。
4. ページ数の増加に対する掲載料の増加を緩やかにする。これに伴い、「Invited Paperは6ページまで4ページと同じ料金」というシステムを廃止する。代わりに、招待講演者がレビューでは

ない通常の論文を書いた場合は Invited Paper とし、料金割引とする。奨励賞受賞者も同様とする。またシンポジウム補助金での支払いが可能であることをオーガナイザーへ周知する。

5. 外税方式とする。
6. カラー印刷を選んでも、冊子の発行数は少ないことを明示する。(もちろんオンラインやCDなどの電子ファイルは通常料金でカラー)
7. 掲載した論文の pdf ファイルは、現状は論文 1 本のみ収録した CD 送付により著者に交付している。これを廃止し、代わりにパスワードを交付することにより、自分でダウンロードしてもらうようにする。これにより スピードアップ、コストダウン、事務局の手間の削減が行える。
8. 上記の結果、オプション不選択の場合には著者への送付物は請求書などの書類のみとなり、海外からの投稿時に割増料金を課金する必要がなくなる。オプション選択で送付物が発生する場合のみ、海外送付手数料を課金すればよくなる。

掲載料の改定案

消費税について

掲載料

海外からの投稿は非課税、日本国内からの投稿は、発行日における消費税率が適用されます。この料金は 2017 年 XX 月 YY 日以降に投稿された論文(アクセプトされた論文ではありません)に適用します。

pdf

掲載料には、その論文の PDF file が含まれます。掲載冊子、別刷りはオプションです。

別刷・掲載冊子

別刷や掲載冊子を日本国内で注文された場合、これらの料金にかかる消費税は日本 MRS 発送日における消費税率が適用されます。海外への発送は非課税ですが、別途海外送料を申し受けます。

レビュー投稿

無料

国際会議投稿

表 1. IUMRS 国際会議の関連論文の掲載料 (税別)

No. of pages	1-4	5	6	7	8
General	¥22,000	¥26,000	¥30,000	¥34,000	¥38,000

上記を超えた場合、1 頁につき ¥2,000(税別)加算されます。

年次大会投稿

表 2. 年次大会の関連論文の掲載料 (税別)

No. of pages	1-4	5	6	7	8
Member*	¥30,000	¥34,000	¥38,000	¥42,000	¥46,000
Non-member	¥40,000	¥44,000	¥48,000	¥52,000	¥56,000
Invited/ Awardee**	上記より ¥5000 引				

上記を超えた場合、1 頁につき ¥2,000(税別)加算されます。

* 著者に日本 MRS の会員が含まれる場合は” Member” の料金。そうでない場合、” Non-member” の料金。

**Plenary/Keynote/Invited 等の招待講演者および奨励賞受賞者による論文の場合。

一般投稿

表 3. 一般投稿論文の掲載料 (税別)

No. of pages	1-4	5	6	7	8
Member*	¥35,000	¥39,000	¥43,000	¥47,000	¥51,000
Non-member	¥45,000	¥49,000	¥53,000	¥61,000	¥65,000

上記を超えた場合、1 頁につき¥2,000(税別)加算されます。

* 著者に日本 MRS の会員が含まれる場合は” Member” の料金。そうでない場合、” Non-member” の料金。

カラーページ

電子版 (オンライン、CD) には、カラー頁はそのままカラーで掲載します。冊子版は現在、カラーページの取り扱いを行っておりません。

別刷

別刷: 必要な方は、Publication Charge Form にその旨を記入してください。表 4 の料金表の金額が加算されます。

表 4. 別刷りの価格 (税別)

カラー頁 なし

	表紙なし(1-4 頁)	表紙なし(5-6 頁)	表紙なし(7-8 頁)
50 部	¥6,000.	¥8,000.	¥10,000.
100 部	¥10,000.	¥12,000.	¥14,000.
150 部	¥14,000.	¥16,000.	¥18,000.
200 部	¥18,000.	¥20,000.	¥22,000.

カラー頁 あり

上記料金に ¥30,000/カラーページ (税別) 加算

別刷の海外発送は別途 3000 円 (非課税) が加算されます。

別紙表紙: ご希望の方は、Page Charge Form にその旨を記入してください。部数にかかわらず、¥10,000(税別)が加算されます。

参考: 現状の料金体系

表 2. IUMRS-ICEM 2012 の発表論文の投稿料 (税込価格)

No. of pages*	1-4	5	6	7	8
charge	¥25,000	¥35,000	¥45,000	¥55,000	¥65,000

* ” Invited Paper” の場合、6 頁までが¥25,000(税込)。それを超えた場合、1 頁につき¥10,000(税込)増額されます。

通常論文の投稿料：通常論文として投稿される場合、表 3 の投稿料(Page Charge)を適用します。この料金は 2012 年 6 月 1 日以降に Submitted された論文(accepted された論文ではありません)に適用します。この投稿料には (1)その論文の PDF file、(2)掲載号一冊、(3)別刷り 25 部が含まれます。発行後、責任著者に請求書とともに送付します。(ICAM2017 も同様。)

表 3. Page Charge (税込価格)

No. of pages	1-4	5	6	7	8	9	10
Member**	¥40,000	¥50,000	¥60,000	¥70,000	¥80,000	¥90,000	¥100,000
Non-member	¥50,000	¥60,000	¥70,000	¥80,000	¥90,000	¥100,000	¥110,000

** 責任著者が日本 MRS の会員の場合、“Member” の料金が適用され、会員でない場合、“Non-member” の料金。

”Invited Paper” の場合、6 頁までが¥40,000(税込)です。それを超えた場合、1 頁につき¥10,000(税込)増額。

カラー頁： Trans. Mat. Res. Soc. Japan の CD 版には全てのカラー頁はそのままカラーで印刷します。

冊子版では次の 2 種類の扱いをします。カラー頁用の加算料金 (¥30,000(税込)/カラー頁) を支払って頂いた場合にのみ冊子版と別刷をカラー印刷します。

カラー頁用の加算料金を支払わない場合、冊子版や別刷は白黒印刷します。

別刷 (必要な方は注文して下さい)： 基本料金に含まれる 25 部以上をご希望の方は、Page Charge Form にその旨を記入してください。表 4 の料金表の金額が加算されます。

表 4. 別刷りの価格 (税込価格)

カラー頁 なし

表紙なし(1-4 頁) 表紙なし(5-6 頁) 表紙なし(7-8 頁)

50 部 ¥6,000. ¥8,000. ¥10,000.

100 部 ¥10,000. ¥12,000. ¥14,000.

150 部 ¥14,000. ¥16,000. ¥18,000.

200 部 ¥18,000. ¥20,000. ¥22,000.

カラー頁 あり

上記料金に ¥30,000/page 加算

別紙表紙： ご希望の方は、Page Charge Form にその旨を記入してください。¥10,000(税込)が加算されます

論文誌の著者の権利の改定 (案)

主旨：自己転載の際に、許可手続きを不要に

現状

著者が TMRSJ に掲載した図版等を、教科書等に再利用する場合なども転載許可を取る必要がある。一般に普及しているリポジトリや研究室 HP への採録に関する基準が不明確。

問題点

1. TMRSJ に使用した図版その他を教科書等に転載・引用する手続きが必要となり、事務局も著者も負担になる。この結果、著者が転載・引用を見送る可能性がある。事務局の手間も増加する。
2. 所属機関のリポジトリ、研究室の HP などへの別刷掲載に問題が生じる。現代の情勢に適合しない。

改定案

1. 著者（共著者を含む）が自己の著作物に転載・引用する場合、出典を明示することを条件に、転載許可の申請を不要とする。
2. 所属機関のリポジトリへの登録、自己の研究室の HP への掲載は自由とする。J-stage に搭載されている論文に関しては、可能な限り DOI を用いたリンクとしてもらう。

実施案

ドキュメント類が整備された段階で速やかに実施する。

広報・情報委員会 H29 年度活動計画

広報・情報委員会
委員長 青木 学聡

平成 29 年度活動計画

1. マイページ機能の充実。現在準備中の部分(年会費支払い状況等)の作成。また世界的な研究者 ID(ORCID)との連携、活用可能性の探査。
2. ホームページの維持管理と充実。
3. 協賛可否、告知依頼の掲載可否など。
4. 会員向け告知情報の充実。外部団体等から広く認知され、協賛依頼等が届くよう図る。

表彰委員会 H29 年度活動計画

表彰委員会委員長
節原 裕一

奨励賞実施要綱

若手奨励賞について

MRS-J 奨励賞の選考要綱

1. 選考委員会 委員長＝節原裕一（大阪大学）

2. 選考委員の推薦依頼

- 1) 各シンポジウムオーガナイザーへ当該分野の選考委員の推薦を依頼する。
- 2) シンポジウム毎に 3 名以上の選考委員を推薦していただく。選考委員の数は、口頭講演およびポスター講演の数、専門性等を考慮し、各シンポジウムに委任する。ただし、60 分あたり、1 人の委員で評価できる講演数は 6 件（120 分で 12 件）程度が限度であることに留意する。個々の選考委員が、どの講演を評価するかの割り振りは、シンポジウム毎に決める選考委員主査に委任する。なお、選考委員および選考委員主査を主オーガナイザーならびに副オーガナイザーが兼ねることは妨げない。
- 3) 各オーガナイザーは、あらかじめ各選考委員あてに評価フォーム（講演番号・名前入）、選考規程、細則、当該講演の要旨を送付する。

3. 講演会当日の選考スケジュール（口頭講演、ポスターを含む）

- 1) 各シンポジウムは、事前に、選考委員主査と合議の上、各選考委員に講演番号と名前が記入済みの評価フォームを送付しておく。評価フォームはあらかじめ事務局より各オーガナイザーへファイル送付する。
- 2) 各選考委員は規定ならびに細則に従って、シンポジウム毎の発表時間内に評価を行い、シンポジウム終了後、速やかにそのフォームを選考委員主査に報告する。
- 3) 選考委員主査は、シンポジウム終了後、所定期間内に、インターネットの集計フォーム（以下、WEB システムと称する）により、以下の事項を選考委員会委員長に報告する。

選考委員主査が WEB システムにより選考委員会委員長に報告する事項：選考委員の氏名（3 名以上）、審査を行った講演の総数、各選考委員の評価結果、推薦順を付した受賞候補者リスト（必要に応じて選考理由を付すこと）。

4) 選考委員会委員長は、上記 3) の報告結果をもとに、受賞者を最終的に判断する。

4. 選考結果の発表と表彰

- 1) 受賞者の名前・所属を「日本MRSニュース」に公示する。
- 2) 表彰方法：賞状等にタイトルと名前を記入の上、選考規定とともに本人に郵送する。

奨励賞規定

1. 本規定は、日本MRS（以下、本会）が若手研究者に対して行う表彰に関して定めたものである。
2. 本表彰は、本会が定期的で開催する年次大会で優秀な発表（口頭発表あるいはポスター発表）をした若手研究者個人に「奨励賞」を授与し、その功績を称えることを目的とする。
3. 表彰対象は、本会が定期的で開催する年次大会で口頭発表あるいはポスター発表した若手研究者であり、以下の全ての要件を満たす者とする。

(1) 論文の登録発表者、(2) 実際に発表した者、(3) 講演申込時に奨励賞への申込をした者

4.若手研究者については、以下のように区分し、区分毎に表彰者を決定する。ただし、学生に関しては年齢を問わない。

(1)学部学生、(2)大学院修士課程（博士前期課程）の学生、(3)大学院博士課程（博士後期課程）の学生、(4)発表年の12月31日の時点で40歳未満の一般の研究者

5.奨励賞選考委員会は、各シンポジウム毎に表彰候補者の数の10%程度を授賞候補者として選び、理事会に推薦する。

6.理事会は、奨励賞選考委員会の結果を審議し、受賞者を決定する。

7.受賞者には会長名の賞状を授与し、受賞者名を「日本MRSニュース」に公示する。

8.本規定は、理事会の承認を経て改定することができる。

9.本賞の英文名称は次の通りとし、受賞日は当該年次大会の最終日とする。

Award for Encouragement of Research in Materials Science;

The Materials Research Society of Japan

奨励賞選考細則

1.奨励賞選考委員会

1) 奨励賞選考委員会は、本会の年次大会を構成する各シンポジウムのオーガナイザーから推薦された選考委員（各シンポジウム毎に3名以上）と、理事会から推薦された委員長ならびに副委員長各1名から構成される。

2) 選考委員の推薦方法は各シンポジウムオーガナイザーに委任する。ただし、選考委員は当該分野に見識のある研究者とする。選考委員会は、推薦リストをもとに選考委員を委嘱する。

3) 個々の選考委員が、どの講演を評価するかの割り振りは、シンポジウム毎に決める選考委員主査に委任する。

4) 選考委員は、奨励賞規定ならびに本細則に従って、当該シンポジウムで発表された表彰候補発表（口頭発表あるいはポスター発表）について評価を行い、シンポジウム終了後、速やかに評価結果を選考委員主査に報告する。

5) 選考委員主査は、シンポジウム終了後、所定期間内に、インターネットの集計フォーム（以下、WEBシステムと称する）により、下記の4.選考手順に定められた所定の事項を選考委員会委員長に報告する。

6) 選考委員会委員長は評価結果をとりまとめ、理事会に報告する。

2.受賞者の数

奨励賞選考委員会は、各シンポジウム毎に表彰候補者の数の10%程度を受賞者候補者として選び、理事会に推薦する。

3.評価項目：以下の5つの項目について評価する

1) 理解度：内容を十分に理解しているか？質疑応答が適切になされているか？

2) 発表あるいは説明の態度：聴講者に内容を的確に説明しているか？

3) 発表あるいはポスターの構成・表現：見やすいか？よく整理されているか？

4) 研究内容：十分に考察されているか？

5) 総合：総合的に見て、優秀な発表であるか？

上記の項目について、

選考委員毎に4段階で絶対評価(4:非常に優れる、3:優れる、2:普通、1:努力を要する)する。

4.選考手順

- 1) 各シンポジウム毎に選考委員の中から選考委員主査を選出する。
- 2) 専門性に配慮し、1つの表彰対象論文に対し、選考委員（3名以上）を選定する。
- 3) 選考委員が共著の論文は、当該委員は評価できない。その場合、専門性を考慮し、やむをえず代替の選考委員が充当できない場合は、他2名の選考委員の評価平均点を評価点として加算する。
- 4) 3名以上の委員の評点の合計点等をもとに、各シンポジウム毎に受賞候補者の推薦順位を決定し、主査はWEBシステムを用いて選考委員会委員長に報告する。その際、所定の事項【選考委員の氏名（3名以上）、審査を行った講演の総数、各選考委員の評価結果、推薦順を付した受賞候補者リスト（必要に応じて選考理由を付すこと）】を、WEBシステムを用いて選考委員会委員長に報告する。

5.理事会での審議

理事会は選考委員会に審議を委任することができる。

6.受賞者の掲示、表彰などについては原則として以下の通りとする。

- 1) 受賞者を、年次大会終了後概ね1ヶ月以内に決定し、本人に通知すると同時に「日本MR Sニュース」などに公示する。
 - 2) 賞の授与は郵送により行う。ただし、この項は本会の学術講演会の運営日程に従い、予告なく変更することができる。
- 7.本細則は理事会の承認を経て改定することができる。

IUMRS 対応委員会 H29 年度活動計画

IUMRS 対応委員会

森 利之

平成 29 年度の活動計画の概要は以下の通り。

- (1) IUMRS-ICAM 2017 (京都大学) 第2回実行委員会 (7月15日、午後2時から4時) 開催予定。
場所は京都大付近を予定。
- (2) IUMRS-ICAM 2017 (京都大学)開催あわせて IUMRS 総会開催準備を行う。

※IUMRS-ICAM 2017 開催について

IUMRS-ICAM 2017 ホームページ <http://www.iumrs-icam2017.org/index.html>

日 程: 2017年8月27日から9月1日

開催地: 京都大学吉田キャンパス

主 催: 一般社団法人日本MRS

組織委員会:

伊熊会長（組織委員長）、鈴木前会長（世話人）、森（事務局長）、組織委員 岸本顧問、有沢理事、ほか

詳しくは、伊熊会長から報告がなされる予定。

(提案) 全国高専機構—日本 MRS 連携推進委員会 設置に関して

連携推進委員会 森 利之

【新委員会設置理由】

日本全国（北海道・東北地区（第1ブロック）、関東信越地区（第2ブロック）、東海・北陸・近畿地区（第3ブロック）、中国・四国地区（第4ブロック）、九州地区（第5ブロック））に51校設置されている国立高等専門学校には、大学の学部3年及び4年次に相当する専攻科が開設されている。

これらすべてを統括する全国高専機構は、グローバル化を先端的に進める新たな高専づくりや、スケールメリットを最大限に活かした研究活動の推進をはかっている。

昨年度、日本 MRS の会長（伊熊前会長）、副会長2名（東副会長、森副会長）と、全国高専機構理事長、理事及び関係者との間において、学際領域における材料研究の活性化と、IUMRS の研究ネットワークを活用したグローバルな活動を行う日本 MRS との連携の可能性についての意見交換の場がもたれた。

その話し合いの結果、今後とも連携の可能性を、学会活動を通して前向きに検討していくことに関し、双方合意に至った。

これをうけて、日本 MRS 年次大会における高専シンポジウムの提案・運営、全国5ブロックにわたる高専機構ネットワークを活用した日本 MRS 大実験室全国展開（目的：日本 MRS の活動理念を全国津々浦々に伝える）、日本 MRS がホストとなる IUMRS 国際会議での高専独自のシンポジウム提案・運営などの活動を通して、日本 MRS の学会活動を基盤として活用した、全国高専機構研究活動におけるアクティビティの飛躍的向上、グローバル化の強力な推進ならびに日本 MRS の会員層の拡大を図るための具体的取り組みに関する計画・立案を行い、それらを実際の活動にうつすことを目的とした委員会を設置する。

【構成メンバー】

委員長：

森 利之（NIMS、日本 MRS 副会長、IUMRS 対応委員会委員長）

暫定的に森が委員長をつとめ、委員会活動が軌道にのった時点で、すべて高専の教員からなる委員会運営体制へと移行する予定。

副委員長：

佐藤貴哉教授 鶴岡高専副校長 （全国高専機構第1ブロック代表）

委員：

荒木信夫教授 長岡高専副校長 （全国高専機構第2ブロック代表）

高田英治教授 富山高専専攻科長 （全国高専機構第3ブロック代表）

嶋崎真一准教授 香川高専地域イノベーションセンター副センター長
（全国高専機構第4ブロック代表）

松本佳久教授 大分高専校長補佐／地域共創テクノセンター長
（全国高専機構第5ブロック代表）

上記委員は、第4ブロックをのぞき、現在、全国高専機構の研究推進産学連携本部員を兼務されている先生がた。

ちなみに、上記委員全員、委員会発足時までに日本 MRS 入会予定。

【2017年度委員会活動計画】

- 第27回日本 MRS 年次大会（2017年12月5日～12月7日、横浜）への高専シンポジウム「全国高専社会実装材料研究シンポジウム」の提案（2017年3月末に提案済み）。
オーガナイザーには、全国高専機構—日本 MRS 連携推進委員会メンバーに加わっていただき、開催期間中に委員会全員が顔をあわせる機会をつくる。
- 鶴岡高専主催科学フェスティバル（開催場所：鶴岡高専）での日本 MRS 大実験室開催（日本 MRS からブースを出すかたちで参加を検討中）
- 全国高専生サミット（沖縄高専開催、2017年9月13日～15日開催予定、<http://biosummit.pr.tsuruoka-nct.ac.jp/>）への参加協力（伊熊前会長）。
優秀賞の選考審査に伊熊前会長も審査員として参加予定。優秀賞受賞学生には、第27回日本 MRS 年次大会内高専シンポジウムでの発表（お披露目発表）参加をする仕組みをつくる。（学生の旅費、参加登録費のサポートが必要）
- 現在、日本 MRS がホスト MRS となり、IUMRS に提案予定の IUMRS-ICYRAM における高専シンポジウム提案計画準備

【活動の波及効果】

- 高専内専攻科進学希望者数増加ならびに他大学修士課程進学希望者数増加
- 高専所属教職員の研究ポテンシャル向上
- 日本 MRS の学会活動を通して、国内外の研究機関・大学と高専の研究交流活性化及び若手人材育成
- 日本 MRS の他組織との水平連携枠拡大

【補足】

全国の高専名、ブロック名、及び地区名の関係を以下の表にまとめて示す。

ブロック	第一ブロック													
高専名	函館	苫小牧	釧路	旭川	八戸	一関	仙台(広瀬)	仙台(名取)	秋田	鶴岡				
地区	北海道・東北地区													
ブロック	第二ブロック													
高専名	福島	茨城	小山	群馬	木更津	東京	長岡	長野	沼津					
地区	関東信越地区													
ブロック	第三ブロック													
高専名	富山(本郷)	富山(射水)	石川	福井	岐阜	豊田	鳥羽商船	鈴鹿	舞鶴	明石	奈良	和歌山		
地区	東海・北陸・近畿地区													
ブロック	第四ブロック													
高専名	米子	松江	津山	広島商船	呉	徳山	宇部	大島商船	阿南	香川(高松)	香川(詫間)	新居浜	弓削商船	高知
地区	中国・四国地区													
ブロック	第五ブロック													
高専名	久留米	有明	北九州	佐世保	熊本(熊本)	熊本(八代)	大分	都城	鹿児島	沖縄				
地区	九州地区													